

社会 第3学年 市のようすとくらしのうつりかわり

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。日本文教出版の年間指導計画にある「うつりかわる市とくらし」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。市の様子と人々の生活は時間の経過に伴って移り変わってきたというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。同じ範囲の古い地図と現在の地図、公共施設や交通の写真を並べ、増えたもの・場所が変わったもの・残ったものを記す。人口や道具の変化も年表に置き、生活との関係を説明する。根拠の指し示し方や説明の修正をすることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年〕(4)	(4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第3学年〕(4)ア(7)	(7) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
〔第3学年〕(4)ア(イ)	(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
〔第3学年〕(4)イ(7)	(7) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

単元の目標

市の様子と人々の生活は時間の経過に伴って移り変わってきたことを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((4))

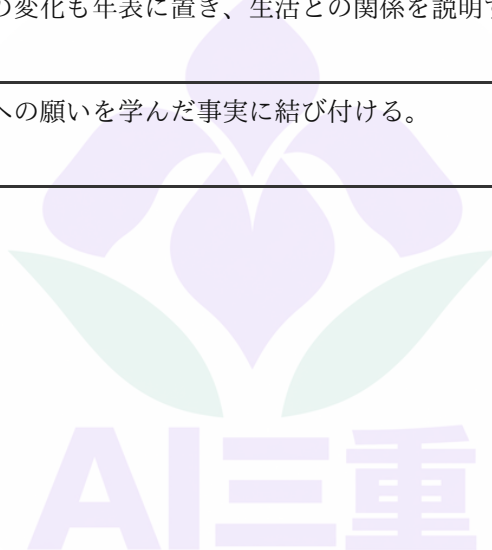
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①市の様子と人々の生活は時間の経過に伴って移り変わってきたことを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①うつりかわる市とくらしの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

日本文教出版の年間指導計画の配当「全15時間」を参照。全15時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～3	○市の新旧写真から疑問を出す。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	4～6	○交通と土地利用の変化を地図で調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	7～9	○公共施設の整備と役割を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	10～ 11	○生活の道具や人口の変化を読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	12～ 13 （本時 を含む）	○変化を年表で関係付ける。 ○同じ範囲の古い地図と現在の地図、公共施設や交通の写真を並べ、増えたもの・場所が変わったもの・残ったものを記す。人口や道具の変化も年表に置き、生活との関係を説明する。	思①（個人の説明・記録）
第6次	14～ 15	○これからの市への願いを学んだ事実に結び付ける。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「市の新旧写真から疑問を出す」ときの疑問を取り出す。 ○「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・市の様子と人々の生活は時間の経過に伴って移り変わってきたのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・家族に古い物や体験を持参・報告することを必須にせず、自治体や博物館の共通資料を用意する
展開 （ 分）	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確認する。 ○同じ範囲の古い地図と現在の地図、公共施設や交通の写真を並べ、増えたもの・場所が変わったもの・残ったものを記す。人口や道具の変化も年表に置き、生活との関係を説明する。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・生活の道具や人口の変化を読むことで、理由を確認したい。	・昔は不便だっただけという説明には、その時代の道具を使った工夫と残されたよさも資料で確認する。市域の広さが違う統計をそのまま比べない ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思①「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】市の様子と人々の生活は時間の経過に伴って移り変わってきた。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「うつりかわる市とくらし」と本時の問い「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。生活の道具や人口の変化を読む際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまずきやすい所と手当て

昔は不便だっただけという説明には、その時代の道具を使った工夫と残されたよさも資料で確かめる。地域の広さが違う統計をそのまま比べない

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。家族に古い物や体験を持参・報告することを必須にせず、自治体や博物館の共通資料を用意する

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

うつりかわる市とくらしの問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。同じ範囲の古い地図と現在の地図、公共施設や交通の写真を並べ、増えたもの・場所が変わったもの・残ったものを記す。人口や道具の変化も年表に置き、生活との関係を説明する。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「市の交通や土地の使い方が変わると、暮らしはどう変わっただろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／日本文教出版年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r6/r6_shakai_nenkei_3.xlsx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

